『ダンボールコンポスト』の作り方と管理方法

くにびきエコクラブ

ダンボールコンポストとは、ダンボール箱を使った生ごみ処理容器です。
ダンボール箱内に入れる土などに含まれる微生物の働きにより、生ごみを分解し、「たい肥」を作ります。

■1. 準備する物

①**ダンボール箱**；縦 30cm、横 45cm、高さ 30cm 程度（容量約 40.5 リットル）
②**底部補強用 ダンボール板**；底部を二重にする(縦 30cm、横 45cm 程度)
；側面補強用ダンボール板の準備も推奨
③**カッターナイフと定規**（ダンボール板の切断用）
④**クラフトテープ**(ガムテープ)
⑤**新聞紙**；４枚程度（底部に敷き、水分吸収用 ）
⑥**基材(土となるもの)**；ピートモス３（6 割 17L）対 くん炭 ２（4 割 11L）の割合
容量 40.5L の 約７割＝約 28L（ピートモス：17L、くん炭：11L）
⑦**基材計量用紙箱**：14cm×14 cm×高さ 8cm 程度(基材を３対２で測る際に利用)
⑧**スコップ**(移植ごて)
⑨**設置台**；網目の台・ブロック・発泡スチロール・スノコ など
⑩**虫よけカバー**；古布・タオル・防虫ネット・古着 など
⑪**薄手の手袋**(基材のかき混ぜ用)
⑫**温度計**；発酵確認用(20℃～40℃対応)

■2. 作り方

①ダンボールの隙間を塞ぎ、虫が入らないようにする



②ダンボール箱の底に新聞紙を敷く
(余分な水分を吸収)



③箱の底に補強用ダンボール板を入れる
(必要に応じて側面も補強)



④ピートモスとくん炭を3:2の割合で箱の７割程度投入し、かき混ぜる(計量用紙箱を使用)

⑤水を加えてかき混ぜる(握ったとき軽く固まる程度)ペットボトル(1L 程度)で調整

⑥布を被せて通気性を確保し、設置台の上に置く







※設置場所は、雨に濡れず風通しの良い場所、高さのある位置に設置する。

■3. 生ごみの入れ方と手入れの仕方

①１日当たりの投入できる生ごみ５００ｇ程度（基材２８Ｌの場合)。

②生ごみを入れたら、毎回しっかりかき混ぜる。

③生ごみを入れない日も、発酵のために空気を取り込む目的で毎日かき混ぜる。

④生ごみは細かくしてから投入することで分解が早く進む。

⑤基材が乾燥している場合は水を加え、適度な湿り気を保つ。

- 適度な湿り気が必要で握るとやわらかい塊になるくらいがよい。
- 乾燥していると微生物の動きが悪くなり、分解が遅くなる。
- 水分が多いと空気が入りにくくなる。また、ダンボール箱が壊れやすくなる。

⑥生ごみは放置せず、なるべく早く投入する。

- 放置した生ごみは虫が卵を産みつけていたら虫を育てることになるので入れない。

⑦白カビが発生した場合は問題なし（発酵が進んでいる証拠)。

⑧温度が２０～４０℃になるのが理想的。寒い季節は温かい場所へ移動するなど工夫。

⑨生ごみ投入期間は３～６か月程度。分解が進まなくなったら投入終了。

■4. 入れてよいもの･よくないもの

◎ 入れてもよいもの	× 入れてはいけないもの
・野菜や果物のくずや芯 ・コーヒーかす、お茶殻（消臭効果あり） ・炭水化物(ごはん、うどん、パンなど) ・油(揚げ物に使用した油も可能) ・加熱した肉や魚 ・発酵食品(ヨーグルト･納豆など) (土を柔らかくする) 	・生魚､生魚（においの原因) ・柑橘類（殺菌成分が発酵を妨げる） ・玉ねぎ､とうもろこしの皮 (分解されにくい) ・骨､貝殻（分解されない） ・漬物や味噌などの塩分が強いもの ・木の枝、雑草

■5. 管　理

①悪臭がする場合

- よくかき混ぜる(空気が足りないと、悪臭が発生しやすくなる)。
- 生ごみの投入を一時中止し、様子を見る。
- 土(ピートモスやくん炭)を追加してかき混ぜる。

②虫が発生した場合

- 防虫カバーをしっかりかける。
- 毎日かき混ぜることで虫を防ぐ効果あり。

③水分が多すぎる場合

- 土(ピートモスやくん炭)を追加し、水分を調整する。

④雨よけのため、ビニール袋で覆うのは大丈夫か

- 微生物の呼吸や水分の蒸発を妨げるため、基本的には推奨できない。
- どうしても必要な場合には、雨が降っている間だけ使用する。

⑤数日、家を空けるため、コンポストの世話ができない場合

・雨の当たらない風通しの良い場所に移動させる。

・放置後は、温度は徐々に下がり休眠状態になる。

・再開時には土をよくかき混ぜてから生ごみを追加、乾燥していたら水や土を加える。

⑥温度が上がらない場合

・土(ピートモスやくん炭)を追加し、様子を見る。

・使用済みてんぷら油を約 100m l 投入し、かき混ぜる。

■6. 熟　成

①生ごみ投入を終えたら、１週間に１回水を加えてかき混ぜる（500mℓ程度)。

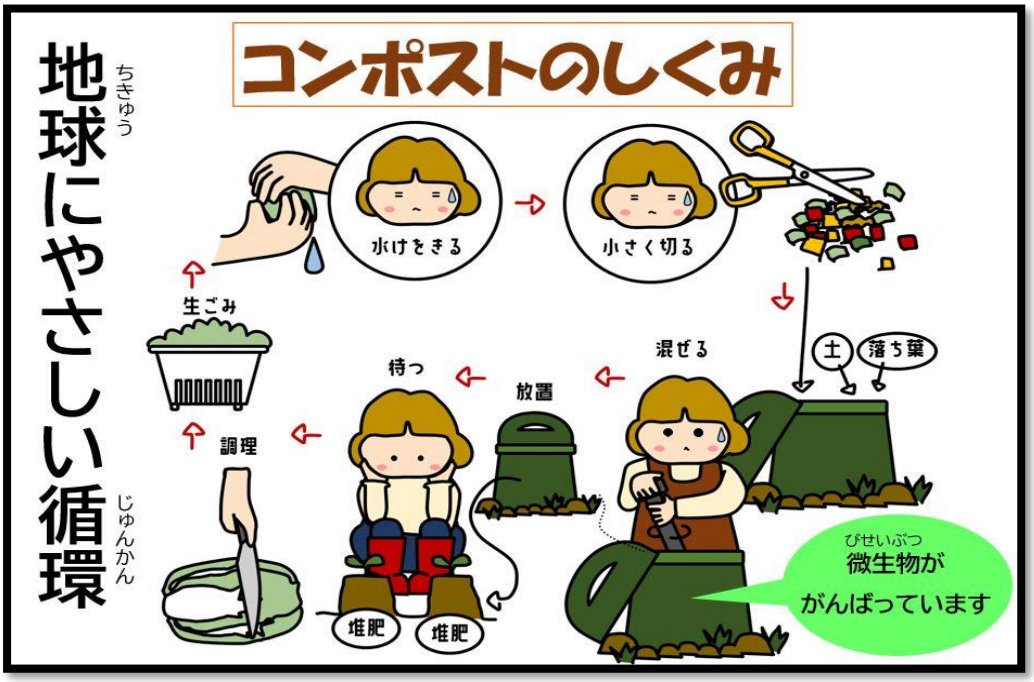
②夏は１ヵ月程度、冬は２ヵ月程度で「**熟　成**」完了。





※ 完成した「**たい肥**」は「土３：たい肥１」の割合で混ぜて使用する。

以　上



出典：地球にやさしいコンポスト（松江市 環境エネルギー課）